

シプロキサン注200mg  
シプロキサン注400mg

【この薬は？】

販売名	シプロキサン注200mg Ciproxan I.V. 200	シプロキサン注400mg Ciproxan I.V. 400
一般名	シプロフロキサシン Ciprofloxacin	
含有量 (1バッグ中)	シプロフロキサシンとして 200mg/100mL	シプロフロキサシンとして 400mg/200mL

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、ニューキノロン系注射用抗菌剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、細菌のDNA（デオキシリボ核酸）の複製にかかわる酵素の作用を妨げることにより、細菌の増殖をおさえ、殺菌作用を示します。
- ・次の病気の人に医療機関で使用されます。

成人

〈適応症〉

敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、炭疽

〈適応菌種〉

シプロフロキサシンに感性的ブドウ球菌属、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、

## クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、レジオネラ属

### 小児

#### ○一般感染症

##### 〈適応症〉

複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、炭疽

##### 〈適応菌種〉

シプロフロキサシンに感性の炭疽菌、大腸菌、緑膿菌

#### ○嚢胞性線維症における緑膿菌による呼吸器感染に伴う症状の改善

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

### ○次の人は、この薬を使用することはできません。

〈この薬を使用するすべての人に共通〉

- ・過去にシプロキササン注に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・ケトプロフェン（注射剤、坐剤）（カピステンなど）を使用している人
- ・チザニジン塩酸塩（テルネリン）を使用している人
- ・ロミタピドメシル酸塩（ジャクスタピッド）を使用している人

〈炭疽以外〉

- ・妊婦または妊娠している可能性がある人

〈複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、嚢胞性線維症、炭疽以外〉

- ・小児

### ○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・気管支喘息、発疹、じん麻疹などのアレルギー症状をおこしやすい体質の人、または両親、兄弟にこれらの体質がある人
- ・うっ血性心不全の人、腎不全の人、ネフローゼ症候群の人など、ナトリウムの摂取が問題となる人
- ・てんかんなどのけいれん性疾患の人、または過去にこれらの疾患と診断されたことがある人
- ・重症筋無力症の人
- ・QT延長（心電図の異常）をおこすおそれのある人
- ・大動脈瘤や大動脈解離のある人、過去に大動脈瘤や大動脈解離のあった人、大動脈瘤や大動脈解離のあった人が血縁にいる人、大動脈瘤や大動脈解離の危険因子（マルファン症候群など）のある人
- ・腎臓に高度の障害のある人
- ・炭疽の場合、妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

### ○この薬によりショックまたはアナフィラキシーがおこることがあるので、既往歴などについて医師に伝えてください。

### ○この薬には併用してはいけない薬[ケトプロフェン製剤（注射剤、坐剤）（カピステンなど）、チザニジン塩酸塩（テルネリン）、ロミタピドメシル酸塩（ジャクスタピッド）]や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

### ○大動脈瘤や大動脈解離のある人、過去に大動脈瘤や大動脈解離のあった人、大動

脈瘤や大動脈解離のあった人が血縁にいる人、大動脈瘤や大動脈解離の危険因子（マルファン症候群など）のある人は、画像検査が行われることがあります。

## 【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- ・使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。
- ・通常、成人の使用する量および回数は、次のとおりです。

一回量	400mg（シプロフロキサシンとして）
使用回数	1日2回、1時間かけて点滴静注する

1日3回まで増量されることがあります。

腎機能障害のある人は、使用量として1回量200mgを、使用回数として1日1回または1日2回で使用されることがあります。

- ・通常、小児の使用する量および回数は、次のとおりです。なお、成人における一回量400mgを超えて使用されることはありません。

[複雑性膀胱炎および腎盂腎炎]

一回量	6～10mg/kg（シプロフロキサシンとして）
使用回数	1日3回、1時間かけて点滴静注する

[炭疽]

一回量	10mg/kg（シプロフロキサシンとして）
使用回数	1日2回、1時間かけて点滴静注する

[嚢胞性線維症における緑膿菌による呼吸器感染に伴う症状の改善]

一回量	10mg/kg（シプロフロキサシンとして）
使用回数	1日3回、1時間かけて点滴静注する

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・大動脈瘤、大動脈解離があらわれることがあるので、腹部、胸部、背部に痛みなどの症状があらわれた場合は、ただちに受診してください。これにより画像検査が行われることがあります。
- ・炭疽以外の場合、妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・炭疽の場合、妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は、医師に相談してください。
- ・この薬の投与を受けた小児の患者に関節障害があらわれることがあります。この薬の投与後に関節の痛みや腫れがあらわれた場合には、処方医に連絡し症状を伝えてください。投与後しばらくたって症状が出る場合もありますので、注意してください。
- ・高齢の人は、腱障害があらわれやすいので、腱周辺の痛み、浮腫、発赤等の症状があらわれた場合は、ただちに受診してください。

- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎 ぎまくせいだいちょうえんなどのけつべんをともなうじゅうとうなだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる、お腹が張る、水のような便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、激しい腹痛、嘔吐（おうと）、下痢
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
骨髄抑制 こつずいよくせい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けつしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃く

おうだん	なる、体がかゆくなる
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう (トキシックエピダーマルネクロライシス : テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節や喉の痛み
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害 あきれすけんえん、けんだんれつなどのけんしょうがい	アキレス腱の痛み・はれ、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射した指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
錯乱、抑うつ等の精神症状 さくらん、よくうつなどのせいしんしょうじょう	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、食欲不振、体がだるい
重症筋無力症の悪化 じゅうしょうきんむりよくしょうのあくか	まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感、食べ物が飲み込みにくい
血管炎 けっかんえん	発熱、手足のしびれ、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍
QT 延長 (心電図の異常) きゅーていーえんちょう	めまい、動悸、気を失う
心室頻拍 (Torsades de pointes を含む) しんしつひんぱく (トルサードポアントをふくむ)	めまい、動悸、胸の不快感、気を失う

大動脈瘤 だいどうみやくりゅう	声がれ、食べ物や水が上手く飲み込めずむせる、息苦しい、食べ物が飲み込みにくい、胸の痛み、背中の痛み、腹痛
大動脈解離 だいどうみやくかいり	激しい胸の痛み、激しい背中の痛み、激しい腹痛

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、寒気、脱力感、疲れやすい、けいれん、顔や手足の筋肉がぴくつく、出血が止まりにくい、出血しやすい、突然の高熱、体がかゆくなる、急激に体重が増える、体がだるい、力が入らない、むくみ
頭部	めまい、意識の消失、意識の低下、一時的にボーっとする、頭が重い、急な意識の低下、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、気を失う、頭痛
顔面	顔面蒼白、血の気が引く、鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ、まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える
耳	耳鳴り
口や喉	喉のかゆみ、咳、喉の痛み、歯ぐきの出血、血を吐く、吐き気、唇や口内のただれ、嘔吐、食べ物が飲み込みにくい、声がれ、食べ物や水が上手く飲み込めずむせる
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、胸の不快感、胸の痛み、激しい胸の痛み
腹部	お腹が張る、腹痛、お腹がすく、食欲不振、激しい腹痛
背中	背中の痛み、激しい背中の痛み
手・足	手足が冷たくなる、手足のこわばり、手足のしびれ、手足のふるえ、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、関節や喉の痛み、関節の痛み、アキレス腱の痛み・はれ、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射した指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、発疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともしう発疹が出る、皮下出血によるあざ、皮

部位	自覚症状
	膚の潰瘍
筋肉	筋肉の疲労感、筋肉の痛み
便	血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、水のような便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、下痢
尿	尿が赤褐色になる、尿の色が濃くなる、尿量が減る

## 【この薬の形は？】

販売名	シプロキサシ注200mg	シプロキサシ注400mg
形状		
性状	無色～微黄色澄明の注射液	

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	シプロキサシ注200mg	シプロキサシ注400mg
有効成分	日本薬局方 シプロフロキサシン	
添加剤	L-乳酸、塩化ナトリウム、pH調整剤	

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：バイエル薬品株式会社(<https://www.pharma.bayer.jp/>)

電話：0120-106-398

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、弊社休日を除く)